

北海道留寿都高等学校の行動計画(グローバル・アグリハイスクール宣言 Part II)

全国の農業高校の行動計画		学校において令和7年度に重点化する取組及び具体的方策		
「5つのミッション」	「8の行動計画」	行動計画の中で重点化する取組	目標達成期間	具体的方策
I グローバル教育で人材を育てる学校	1 「生徒一人ひとりを一層輝かせ成長させる教育」を行います。	(1) アグリマイスター顕彰制度を推奨し、農業教育の質を向上させます。	B	(1) 日本農業技術検定3級の合格率80%を目指して学習環境の整備、指導体制の確立を目指す。 (2) 農業クラブ各行事で、生徒の自主的活動を強化し、地域大会、全国大会の入賞に向けた指導をおこなう。
	2 「世界と日本をつなぐグローバル教育」を行います。	(1) 教科指導の充実を図り、国際教育の推進を図ります。	B	(1) 教科間連携の環境を維持し、学校全体で国際的視野を広げる学習に努める。
II 地域社会・産業に寄与する学校	3 「地域農業の生産を支える教育」を行います。	(1) GAPの基準に基づいた農場経営を実施し、持続可能な農業の推進を図ります。 (2) 農家委託実習を通して、産業人の育成を目指します。	B	(1) JGAP維持審査に向けて圃場の改善していくとともに、地域の方へ向けた公開審査を実施する。 (2) 2、3年生にて地域の農家への実習を実施する。
	4 「地域の農業関連産業や6次産業化に寄与する教育」を行います。	(1) プロジェクト学習にて地域の課題や、新たな魅力発信に向けた取り組みを推進します。 (2) 地域の農業と連携し、6次産業を学ぶ機会を創出します。	B	(1) 地域と連携したプロジェクト活動を実施し、その成果を地域に発信する。 (2) 地域の農業関連産業への視察、実習等をおこない、6次産業を学ぶ機会を設ける。
III 地球環境を守り創造する学校	5 「地球環境を守り、創造する教育」を行います。	(1) SDGsの達成に寄与するため、GAPの基準に基づいた農場づくりを実践します。	B	(1) GAPに基づいた圃場を実践するとともに、GAP学習の充実化を図る。
	6 「地域資源を活用し、地域振興の拠点となる教育」を行います。	(1) 村のすべての教育機関と、農業を中心とした教育連携を実践します。	B	(1) 村の保育園、小学校、中学校と連携した農業体験交流を実施し、地域振興に取り組む。
IV 地域交流の拠点となる学校	7 「Society5.0の時代に応じた教育」を行います。	(1) ICTを用いた授業を学校設定科目「国際農業」を中心に実践し、スマート農業に関する学習の充実・発展を図ります。	A	(1) 圃場にて一人一台端末を活用した情報共有の簡易化を図り、スマート農業の実践を目指す。
V 地域防災を推進する学校	8 「地域防災を推進する教育」を行います。	(1) 学校全体にて安全教育を徹底し、防災意識を高める教育を展開します。	B	(1) 圃場にてGAPの労働安全に準じた改善、掲示をおこない、「安全な農場づくり」をおこなう。 (2) 災害が起きた場合の対処方法等をシミュレーションする機会を設ける。